

家庭教育における民族文化の現状

—内モンゴルのモンゴル族家庭を事例に—

李 叶

序言

中国の急速な経済発展と都市化により、内モンゴル自治区の経済は著しく発展を遂げ、人々の生活水準が向上し、モンゴル族の経済発展に大きなチャンスを与えた。こうした社会生活環境の変化により、モンゴル族が生きる社会環境、生活環境と言語環境において現代化、すなわち漢化が進んだ。モンゴル族社会は現代化するとともに、モンゴル族の伝統文化は激しく変容し、伝統文化を失いつつある困難な時期となっている。この現状に対して2015年に中国政府は学校教育では民族文化の保護伝承政策を実施し、それ以来民族文化伝承については学校教育が主流となっている。それに対して家庭教育については国の決まりがなく、各家庭では親に任せる形で行われている。家庭教育の機能が衰退した現代社会においては、家庭内での民族文化に関する教育が軽視されてきているように思われる。

本稿では現代社会に生きるモンゴル族の家庭における民族文化教育にはどのような変容が生じているのかを明らかにする。とりわけ、地域と世代間での変容に焦点を当て、内モンゴル自治区のオルドス市ウーシン旗と通遼市フレイ旗のモンゴル族家庭の子供と親を対象にして、家庭及び家庭教育での民族文化の現状を分析する。それらを通して、さらに社会環境と生活環境はモンゴル族の家庭教育にどのように影響を及ぼしているのかを検討する。

1 先行研究

先行研究において、モンゴル族家庭教育の起源、内容、特徴、価値について整理したものが多く、その中でバーサンジャブ・バトゲレル（2013）、鞠楠楠（2015）がモンゴル族の伝統的な家庭教育の内容と方法について詳細に論じている。鄧永星（2011）はモンゴル族の家庭内での道徳教育が各民族の協和共生及び社会建設に価値があると述べ、韓艷華（2016）は未成年の成長における家庭教育の意義を検討した。李素梅、張苗苗（2007）は、モンゴル族文化全体の中における家庭内の伝統的な美徳は依然として存在していると指摘している。敖日布巴斯爾、那恩和（2010）はモンゴル族の家庭教育方法、主に子供の年齢に応じて教育すべき生活知識、礼儀、伝統習俗、他人及び自然との関わり方を詳細に論じた。敖木巴斯爾、南丁（2010）は、モンゴル族の伝統的な民間教育について、早期教育、家庭教育、社会教育、

学校教育、多言語教育といった観点から考察した。

社会の変化にともない、家庭内での民族文化の教育についてどのような変化が生じたのか。今迄の研究ではこの問題について検討した先行研究は非常に少ない。薩楚拉（2013）は内モンゴルの家庭教育において母語の表現力が退化している問題を取りあげ、学校統廃合の影響を受け、子供と親に伝統的儀礼が少なく、親の役割と生き方の変化に伴い、モンゴル族の伝統文化に大きな変化が生じていることを論じた。エンフソヨル（2009）はモンゴル国の家庭教育における伝統的な習慣が現在もはやなくなっていると言い、その要因としてモンゴルで家族の生活のために親が二人で働く必要があり、子供たちの家庭教育ということを忘れてきたことをあげている。そのほかに、宝力嘎（2007）は牧畜生活をしているモンゴル族を対象として、モンゴルの大自然と宗教に基づく伝統的なしつけや体罰を考察した。

内モンゴルの西部ではモンゴル人牧民が多く在住し、東部ではモンゴル人農耕民が多く在住し、同じモンゴル族と言っても、地域によって生活スタイルが異なる。社会生活の現代化に伴い、内モンゴルの西部と東部に住むモンゴル族の家庭教育のなかで、民族文化がどのように変容し、どういった面で変化が生じているのか、興味深いところである。しかし、これまでその問題を検討した研究はほぼ見当たらない状態である。

そこで、本稿は内モンゴル自治区の西部¹と東部²におけるモンゴル族家庭の親と子供を対象とし、社会環境と生活環境の現代化に伴うモンゴル族の家庭教育の変化を検討し、さらにモンゴル族家庭教育における民族文化の現状を明らかにする。

2 調査概要

本章では本稿の調査方法、調査対象者を紹介する。

2.1 調査方法と調査地

本稿は以上の課題を解明するために、モンゴル族の家庭教育について2018年9月27日から10月7日にかけて質問紙調査を実施した。調査対象者は全員モンゴル族で、内モンゴル自治区のオルドス市ウーシン旗と通遼市フレイ旗に常住している親と子供である。調査では親と親自身が育てられた家庭の家庭教育における民族文化の教育状況について質問した。

オルドス市ウーシン旗は内モンゴル自治区オルドス市西南部に位置し、北はイジンホロ旗、ハンギン旗と接し、東と南は万里の長城と陝西省と隣接し、西はオトク旗とオトク前旗と接している。総面積は11645平方キロメートルであり、5つの鎮と1つのソムを合わせて61のガチャー、409の自然村、13の社区を管轄している。2018年までは旗内総人口は13.2万人、その中農村と牧区人口を合わせて6.3万人いる。漢族は70.9%を占め、主に旗の中心部に住み、モンゴル族は3万人で22.5%を占め、多くは牧区に住んでいる。そのほかの回族、満州族、チベット、朝鮮族などの少数民族は3千人であり、全人口の6.6%を占める。当旗の城

鎮化率は60.0%に達し、産業別就業人口の比率は第一次産業は3.9%であり、第二次産業は70.6%であり、第三次産業は25.5%である。境域内において天然ガスと石炭、水資源などの自然資源が豊富であり、2017年12月に「中国工業100強県」において75位に選ばれ、「西部100強県」において7位となった。当旗は「全国文明旗」、「全国緑化模範旗」、「国家衛生県城」、「全国レジャー農業及び鄉村旅行示範県」などに選ばれ、内モンゴル自治区において初めてISO14001環境質量が認定された³。

通遼市フレイ旗は内モンゴル自治区通遼市西南部に位置し、南と東南に厚很河と遼寧省阜新モンゴル族自治県、彰武県と接し、東は科爾沁左翼後旗と、西は奈曼旗と隣接し、北は開魯県と接している。総面積は4714平方キロメートルであり、5つの鎮、2つのソム、1つの郷と1つの国有林場を合わせて106のガチャー、80の自然村、8つの社区を管轄している。2018年に当旗総人口は17.8万人であり、そのうち13.8万人は農業者であり、モンゴル族、漢族、回族、満州族など11の民族が在住して、その中でモンゴル族は11.4万人で64.0%を占め、漢族は6.2万人で34.8%を占める。産業別就業人口の比率は第一次産業は24.4%であり、第二次産業は38.2%であり、第三次産業は37.4%である。境域内では石灰石、大理石、高陵土、亜鉛などが豊富である。蕎麦と雑穀の生産も盛んで、「中国蕎麦之郷」と称されてもいる。当旗は「フレイ三大寺」を中心に古鎮の保護と観光地化を推進させ、当旗政府所在地であるフレイ鎮は2014年に通遼市で初めて国家レベルの「中国歴史文化名鎮」となった⁴。

調査地の特徴としてオルドス市ウーシン旗は内モンゴル自治区の西部地域に位置し、人口的に漢族中心で、モンゴル族が少ない。モンゴル族牧民が多く、モンゴル族の伝統的な生活様式が多く残っている地域である。通遼市フレイ旗は内モンゴル自治区の東部地域に位置し、人口的にモンゴル族を中心とした半農半牧地域である。調査は中国の行政単位⁵として旗を選び、調査対象者は中高生とその生徒の親である。地域のバランスを考慮して、2つの調査地から中学生と高校生を50人ずつ、生徒の親を100人ずつ選び、合計400名に質問紙調査を行った。調査対象校はオルドス市ウーシン旗のオルドス市第二モンゴル族中学校⁶であり、通遼市フレイ旗のフレイ旗第四初級中学校⁷とフレイ旗第一高級中学校⁸である。調査対象学校はモンゴル語で授業を行っている民族学校である。民族文化教育に熱心な学校で、調査対象地の民族学校を代表できるため、今回の調査対象とした。データの入手方法として、それぞれの学校の教師を通して生徒に調査票を配布してもらった。生徒に「子供向けの調査票」を学校で記入してもらい、生徒が帰宅した時に「親向けの調査票」を親に手渡しして回答してもらった。生徒が登校した後に、教師が生徒から子供と親の回答済みの調査票を回収した。回収率は100%であり、有効回答率は100%である。

2.2 回答者の基本属性

本稿では、調査対象者の基本属性として子供と親の性別、親の年齢、出身地、学歴、職業、年間収入、家族構成及び民族構成をとりあげた。詳しい内容は表1 - 表6に整理した。

調査では調査対象者の性別を均等にするようにした。両地域では親の年齢が41歳－50歳の者が6割を占めた。親の出身地として「農村」、「牧区」、「その他」の区分で質問したところ、フレイ旗では「農村」出身者が95.0%、ウーシン旗では「牧区」出身者が97.0%を占めた。今回の調査対象ではフレイ旗よりウーシン旗の親の方が学歴と年間収入が高い。親の職業についてはフレイ旗では農民が多いのに対し、ウーシン旗では農民は非常に少なく、牧民は2割強を占め、企業単位で働く者が多かった。フレイ旗では「核家族」が多く、ウーシン旗では「三世帯家族」と「四世帯家族」が多かった。家族内民族構成として「全員モンゴル族」、「漢族もいる」という2つの項目をとりあげたが、「全員モンゴル族」はフレイ旗では89.0%、ウーシン旗では86.0%を占めた。どちらの地域においても「漢族もいる」家庭は1割を超え、モンゴル族と漢族の通婚が少なくないようにみえた。

表1 性別

		親	子供
フレイ旗	男性	53.0%	52.0%
	女性	47.0%	48.0%
ウーシン旗	男性	46.0%	48.0%
	女性	54.0%	52.0%

表2 親の年齢

	フレイ旗	ウーシン旗
20-30歳	0%	0%
31-40歳	31.0%	34.0%
41-50歳	62.0%	62.0%
51-60歳	6.0%	4.0%
61-70歳	1.0%	0%
71歳以上	0%	0%

表3 家族構成

	フレイ旗	ウーシン旗
核家族	60.0%	42.0%
三世帯家族	39.0%	48.0%
四世帯家族	1.0%	6.0%
その他	0%	4.0%

表4 親の学歴

	フレイ旗	ウーシン旗
学校行っていない	2.0%	0%
小学校	25.0%	8.0%
中学校	49.0%	19.0%
高校	21.0%	27.0%
専科	0%	17.0%
大学	3.0%	24.0%
修士以上	0%	5.0%

表5 親の職業

	フレイ旗	ウーシン旗
農民	92.0%	2.0%
牧民	0%	27.0%
教師	2.0%	10.0%
企業職員	5.0%	24.0%
公務員	1.0%	16.0%
自営業	0%	11.0%
その他	0%	10.0%

表6 親の年間収入

	フレイ旗	ウーシン旗
15000元/年未満	1.0%	7.0%
15000-35000元/年未満	14.0%	31.0%
35000-50000元/年未満	63.0%	19.0%
50000-100000元/年未満	15.0%	26.0%
100000元/年以上	7.0%	17.0%

3 家庭教育における民族文化の調査内容と分析

本章では家庭教育における民族文化についての質問紙調査の結果に基づき、家庭で教えている民族文化の教育比率、教育内容、現在の親が子供に教えたことと子供ができることについて、フレイ旗とウーシン旗の地域差、親及び親自身が育てられた家庭の間の世代差を分析し、モンゴル族の家庭教育における民族文化の変容を明らかにする。

3.1 日常生活における民族文化との接触

まず、モンゴル族の日常生活における民族文化を中心に分析し、モンゴル族親子の民族文化との接触状況を把握する。

(1) 家庭で使う言語

家庭で子供と話す時に使う言語として「モンゴル語」、「中国語」、「蒙漢混合語」の3つの項目をあげ、当てはまるものを1つ選んでもらった。フレー旗では家庭で子供と話す時に80.0%が「蒙漢混合語」を使っているが、ウーシン旗では68.0%が「モンゴル語」を使っている。

(2) 民族文化に対する価値観

まず、民族文化に対する価値観を知るために親と子供別で「家庭で民族文化を教える必要があるか」と質問した。「ある」と回答した親はフレー旗では96.0%、ウーシン旗では100%を占め、子供はフレー旗では83.0%、ウーシン旗では95.0%を占めた。親はどちらの地域でも家庭で子供に民族文化を教える必要があると強調している。しかし、子供世代においては地域差がみられ、フレー旗では家庭で民族文化を教える必要が「ない」と否定する子供が2割近くいる。

次に、親に「家庭で民族文化を教えることは子供の将来に役立つか」と質問した。「役立つ」はフレー旗では79.0%、ウーシン旗では100%を占めた。また、子供に「家庭で民族文化を学ぶことはあなたの将来に役立つか」と質問したところ、「役立つ」と答えた子供はフレー旗では71.0%、ウーシン旗では85.0%を占めた。フレー旗よりウーシン旗の親と子供は民族文化を学ぶことの将来的な効果を期待している。

さらに、「家庭で民族文化を教える必要があるか」という質問に「ある」と答えた親を対象に、子供に民族文化を教えている動機、家庭で民族文化を教える良さを質問した。それぞれ4つの項目をあげ、当てはまるものをすべて選んでもらった。

子供に民族文化を教えている動機として両地域合わせて回答が多い順をみると「民族文化を重視する」(75.0%)、「民族文化は価値がある」(58.0%)、「祖先から伝わってきた」(43.0%)、「知識を補足できる」(34.0%)となり、「民族文化を重視する」と「モンゴル族の伝統文化は価値がある」ことは大きな動機となっていることがわかった。また家庭で子供に民族文化を教える良さについては「子供の民族意識を上げる」(77.0%)、「子供に民族文化を知ってもらう」(75.0%)、「子供の知識を補足できる」(63.0%)、「子供の精神世界を豊かにする」(62.0%)の順であった。

(3) 民族のことわざ、禁忌語、習俗礼儀の使用

親を対象にモンゴル族の伝統的なことわざ、禁忌語、習俗礼儀を使って子供を教育している頻度を「いつも」、「たまに」、「ない」の3段階で質問した。フレー旗では順に42.0%、54.0%、4.0%であったのに対し、ウーシン旗では83.0%、17.0%、0%となった。フレー旗よりウーシン旗の家庭のほうが、モンゴル族のことわざ、禁忌語、習俗礼儀を日常的に使って子供を教育していることがわかる。

(4) 祝日の過ごし方

親に「家庭ではモンゴル族の習俗で祝日を過ごす」ことについて質問したが、回答は「いつも」、「たまに」、「ない」の順に、フレー旗では57.0%、43.0%、0%を占め、ウーシン旗では83.0%、17.0%、0%を占めた。フレー旗よりウーシン旗の親のほうが家庭では日常的にモンゴル族の習俗で祝日を過ごしている。

家にいる時間が長い親には「家」だけでの祝日の過ごし方を質問した。しかし子供は家よりも学校にいる時間のほうが長いので、子供には「家」に加えて「家以外」の場所での祝日の過ごし方を質問した。「家では全部モンゴル族の習俗で過ごす」子供はウーシン旗では59.0%で最も多く、フレー旗は18.0%で非常に少ない。「家ではモンゴル族の習俗で過ごすことが多いが、他の民族の習俗で過ごすこともある」子供はフレー旗では72.0%で最も多く、ウーシン旗では40.0%で比較的少ない。「家以外の場所ではモンゴル族の習俗で過ごすことが多いが、他の民族の習俗で過ごすこともある」について地域差はみられなかった。「家以外の場所ではモンゴル族の習俗で過ごすことが少なく、他の民族の習俗で過ごすことが多い」と回答した子供はフレー旗では16.0%、ウーシン旗では8.0%を占め、地域差がみられた。

(5) 家に残っている伝統的な生活方式

親を対象に「家にモンゴル族の伝統的な生活方式はどれほど残っているか」と質問し、「多い」、「少ない」、「ない」の中から1つ選んでもらった。フレー旗では順に17.0%、81.0%、2.0%となり「少ない」と回答した親が8割を占めたが、ウーシン旗では80.0%、20.0%、0%となりフレー旗とは逆に「多い」という回答が8割であった。フレー旗よりウーシン旗の家庭ではモンゴル族の伝統的な生活方式が多く残っている。

(6) 民族文化の取得方法

民族文化の取得方法について親の子供時代と今の子供の間で世代差があるかどうかを質問してみた。民族文化の取得方法として「親が口頭伝達する」、「伝統文化関係の本を読む」、「親が現場で教える」、「(ラジオ、テレビ、インターネットなどの)メディアを利用する」、「学校で勉強する」、「その他」の6つの項目をあげ、当てはまるものをすべて選んでもらった。親の子供時代については全体的に「親が口頭伝達する」(69.0%)、「親が現場で教える」(69.0%)が多く、「伝統文化関係の本を読む」(15.0%)、「学校で勉強する」(14.0%)、「メディアを利用する」(5.0%)ことは少なかった。ただその中で地域差がみられ、ウーシン旗では「親が現場で教える」ことが最も多く、フレー旗では「伝統文化関係の本を読む」、「メディアを利用する」、「学校で勉強する」が多くなっている。

この傾向は子供世代になると大きく変化がみられる。民族文化を「親が現場で教える」ことが親世代では最も多かったが、子供世代では29.0%までと激減している。特にウーシン旗での減少が激しい。他方で、子供は民族文化を「学校で勉強する」(65.0%)ことが激増し、「伝

統文化関係の本を読む」(47.0%)、「メディアを利用する」(26.0%)と「その他(塾で学ぶ)」(16.0%)ことも増加している。

3.2 家庭教育における民族文化の変容

ここでは、地域と世代別でモンゴル族の民族文化にかかわる教育内容を分析する。とりわけ、習俗、民族文化、禁忌習俗、家庭内外の生活知識などについての調査を詳しくとりあげ、モンゴル族の家庭教育における民族文化の変容を分析する。

(1) 習俗

家庭で教える習俗の内容として「祝日習俗」、「婚礼習俗」、「祝寿礼儀」、「お客の出迎え礼儀」、「葬礼」、「宗教礼儀」を質問として設け、「子供が知っている習俗」と「親が子供に教えた習俗」と「親自身が育てられた家庭で教わった習俗」の3つの区分で地域別に比較した。

表7 習俗の教育／地域別・世代別

	子供が知っている習俗			親が子供に教えた習俗			親が育てられた家庭で教わった習俗		
	フレー旗	ウーシン旗	有意確率	フレー旗	ウーシン旗	有意確率	フレー旗	ウーシン旗	有意確率
祝日習俗	54.0%	77.0%	***	53.0%	75.0%	***	75.0%	92.0%	***
婚礼習俗	19.0%	34.0%	**	9.0%	41.0%	***	27.0%	56.0%	***
祝寿礼儀	35.0%	54.0%	**	28.0%	49.0%	**	44.0%	95.0%	***
お客の出迎え礼儀	63.0%	92.0%	***	62.0%	82.0%	**	81.0%	95.0%	***
葬礼	11.0%	16.0%	0.301	13.0%	21.0%	0.132	21.0%	18.0%	0.592
宗教礼儀	5.0%	16.0%	*	6.0%	7.0%	0.774	15.0%	31.0%	***

注：***P<0.01 **P<0.05 *P<0.10

表7で示すように、世代が若いほど家庭内で伝統的な習俗を教える比率が減少している。現在の親は身近でよく活用する「お客の出迎え礼儀」と「祝日習俗」、「祝寿礼儀」を教えることは多いが、特定の時間しか使わない「婚礼習俗」、「葬礼」、「宗教礼儀」について教える比率は低い。それゆえ、子供は「お客の出迎え礼儀」、「祝日習俗」、「祝寿礼儀」についてはよくわかっているが、「婚礼習俗」、「葬礼」、「宗教礼儀」について知っている比率は低くなっている。以上の分析より、習俗について親が教えるかどうかは、子供の習俗知識に直接影響しているといえる。

(2) 民族伝統文化

本稿ではモンゴル族の民族伝統文化を「民族歌」、「民族踊り」、「民族遊戯」、「民族体育活動」、「民族習俗礼儀」、「民族手工芸」、「民族飲食文化」、「民族文字」といった面から捉える(表8)。

まず、民族伝統文化を教えたか否かを世代に注目して分析する。民族伝統文化の全項目について、親の親世代も現在の親世代も、ウーシン旗の親のほうがより多く教えているという

地域差がある。世代による変化はみられるが、項目によって、さらに地域によってその変化の様相はさまざまである。たとえば、「民族歌」に注目すれば、フレー旗では親自身が育てられた家庭より現在の親の教える比率が減少している一方、ウーシン旗では増加している。それとは逆に「民族習俗礼儀」と「民族手工芸」については、現在の親の教える比率がウーシン旗では減少しているが、フレー旗では増加している。特にフレー旗では「民族習俗礼儀」が大きく増加している。なお、「民族文字」については地域と世代を問わず、100%となっている。

表8 民族伝統文化の教育／地域別・世代別

	子供ができること			親が子供に教えたこと			親が育てられた家庭で教わったこと		
	フレー旗	ウーシン旗	有意確率	フレー旗	ウーシン旗	有意確率	フレー旗	ウーシン旗	有意確率
民族歌	19.0%	75.0%	***	46.0%	61.0%	**	57.0%	54.0%	0.669
民族踊り	32.0%	59.0%	***	12.0%	26.0%	**	14.0%	73.0%	***
民族遊戯	13.0%	26.0%	**	29.0%	53.0%	***	27.0%	85.0%	***
民族体育活動	15.0%	63.0%	***	10.0%	26.0%	**	59.0%	100.0%	***
民族習俗礼儀	11.0%	18.0%	0.160	49.0%	68.0%	**	29.0%	82.0%	***
民族手工芸	56.0%	65.0%	0.193	51.0%	64.0%	*	48.0%	100.0%	***
民族飲食文化	20.0%	73.0%	***	20.0%	40.0%	**	14.0%	97.0%	***
民族文字	100.0%	100.0%	1	100.0%	100.0%	1	100.0%	100.0%	1

注：***P<0.01 **P<0.05 *P<0.10

次に、子供ができる民族伝統文化を地域別にみると、ウーシン旗のほうが高い比率を占める。ウーシン旗では「民族歌」、「民族踊り」、「民族体育活動」、「民族手工芸」、「民族飲食文化」をできる子供が多数派を占めるのに対し、フレー旗では「民族手工芸」と「民族踊り」をできる子供が比較的多い状況である。

親が子供に教えた民族伝統文化と子供ができる民族伝統文化を比較すると以下の特徴が指摘できる。「民族歌」と「民族飲食文化」についてウーシン旗では子供ができる比率は親が教える比率を上回っている。それとは対照的にフレー旗では親が子供に「民族歌」を教えても、子供ができる比率が非常に低くなっている。「民族踊り」、「民族体育活動」、「民族手工芸」については両地域とも子供ができる比率は親の教える比率を上回る。逆に「民族習俗礼儀」、「民族遊戯」は、両地域とも子供ができる比率は親の教える比率を下回った。

近年、子供たちは「民族歌」、「民族踊り」、「民族遊戯」、「民族体育活動」、「民族手工芸」を「塾」で学ぶことが多くなってきている。これらについては親が教えなくても子供が塾に通って学ぶことができる。これに対し「民族習俗礼儀」は家庭中心で伝承することが一般的であるが、親世代から教える比率が比較的高いにもかかわらず、「民族習俗礼儀」をできる子供が非常に少ない。この状況から家庭教育は民族伝統文化を伝承する機能を喪失しつつあることが推測できる。

(3) 民族芸術

本稿ではモンゴル族の民族芸術を「歌」、「音楽」、「舞踊」、「オルティンドー」、「四線ホール」、「馬頭琴」、「絵画」、「彫刻」といった8つの点からみる(表9)。

まず、民族芸術を子供に教えたかについて地域と世代別にみる。世代を問わず、多くの項目でフレージよりウーシン旗のほうが教える比率は高いが、唯一「四線ホール」だけはフレージ旗の家庭で多く教えられている。「四線ホール」は内モンゴルの東部地域に暮らしているモンゴル族の間でよく使われている楽器である。「馬頭琴」は内モンゴルの西部地域のモンゴル族の間で多く使われる楽器であり、「オルティンドー」も西部モンゴル族の間でよく歌われる歌である。これらの特徴が結果に反映されたものと思われる。

教える比率の変化には地域による違いがある。たとえば「舞踊」については、ウーシン旗で大きく減少しているにもかかわらず、フレージ旗ではもともと少ない数字ではあったがやや増加している。「絵画」に関しては、フレージ旗では親自身が育てられた家庭より現在の親の教える比率が10ポイントも落ちているが、ウーシン旗ではこれと逆に10ポイント増加している。

次に、子供ができる民族芸術を地域別に比較する。「歌」と「音楽」、「絵画」、「彫刻」については地域差がないが、「舞踊」、「オルティンドー」、「四線ホール」、「馬頭琴」については地域差がみられた。

表9 民族芸術の教育／地域別・世代別

	子供ができること			親が子供に教えたこと			親が育てられた家庭で教わったこと		
	フレージ旗	ウーシン旗	有意確率	フレージ旗	ウーシン旗	有意確率	フレージ旗	ウーシン旗	有意確率
歌	47.0%	57.0%	0.157	47.0%	48.0%	0.887	55.0%	88.0%	***
音楽	44.0%	40.0%	0.567	20.0%	40.0%	***	31.0%	60.0%	***
舞踊	25.0%	43.0%	***	9.0%	29.0%	***	3.0%	52.0%	***
オルティンドー	0%	13.0%	***	0%	7.0%	***	0%	73.0%	***
四線ホール	8.0%	0%	**	12.0%	5.0%	**	24.0%	11.0%	**
馬頭琴	12.0%	24.0%	**	0%	21.0%	***	0%	52.0%	***
絵画	22.0%	21.0%	0.863	12.0%	24.0%	**	22.0%	14.0%	0.141
彫刻	9.0%	9.0%	1	1.0%	9.0%	**	20.0%	25.0%	0.397
その他	26.0%	23.0%	0.622	32.0%	23.0%	0.154	31.0%	15.0%	**

注：***P<0.01 **P<0.05

子供ができる比率を親が子供に教えた比率と比較すると以下の傾向が指摘できる。「舞踊」と「馬頭琴」については、子供ができる比率は親が教えた比率を上回り、「歌」、「音楽」、「絵画」、「彫刻」もほぼ同じ傾向といってよい。「オルティンドー」は、フレージ旗の家庭では教えられておらず、子供もできないが、ウーシン旗の子供ができる比率は親が教えた比率より高い。逆に、子供ができる比率は親が教えた比率よりさがるのは「四線ホール」であった。

民族芸術について従来、家庭で親が子供に教えるのが一般的であった。現在、子供たちは学校の授業を経て勉強するか、もしくは課外時間を利用して「塾」で学ぶことが多く、それがこの変化の背景にあると考えられる。

(4) 禁忌習俗

ここではモンゴル族の生活にかかわる禁忌習俗を「交流」、「服飾」、「飲食」、「家具」、「住居」、「出産」、「礼儀」、「家畜」といった面から捉える（表10）。

まず、禁忌習俗の教育について地域と世代別に比較する。禁忌習俗について世代を問わず、ウーシン旗のほうが教える比率が高い。地域にかかわらず、教える比率は世代がさがる
と減少している。ウーシン旗では現在の親が子供に教える比率は激減しているが、フレー旗
ではもともと親世代で教えられた比率が少ないこともあり大きな減少はあまりみられない。
すなわち、世代をへることにより地域差が弱まり、その中でも「家具」、「礼儀」、「家畜」に
ついては地域差が無くなっている。

表10 禁忌習俗の教育／地域別・世代別

	子供がわかること			親が子供に教えたこと			親が育てられた家庭で教わったこと		
	フレー旗	ウーシン旗	有意確率	フレー旗	ウーシン旗	有意確率	フレー旗	ウーシン旗	有意確率
交流	45.0%	72.0%	***	62.0%	73.0%	*	79.0%	92.0%	**
服飾	25.0%	41.0%	**	30.0%	43.0%	*	36.0%	95.0%	***
飲食	50.0%	78.0%	***	65.0%	76.0%	*	71.0%	100.0%	***
家具	2.0%	13.0%	**	16.0%	16.0%	1	26.0%	95.0%	***
住居	11.0%	24.0%	**	20.0%	31.0%	*	40.0%	75.0%	***
出産	8.0%	15.0%	0.121	4.0%	16.0%	**	15.0%	58.0%	***
礼儀	58.0%	65.0%	0.309	51.0%	57.0%	0.395	48.0%	100.0%	***
家畜	26.0%	36.0%	0.126	24.0%	26.0%	0.744	37.0%	89.0%	***

注：***P<0.01 **P<0.05 *P<0.10

禁忌習俗の内容について何が多く教えられていたかみてみよう。フレー旗の親の子供時代
では「交流」、「飲食」が中心的である。それに比べウーシン旗では禁忌習俗の多くの内容が
教えられていたことがわかる。現在の親では「交流」、「飲食」、「礼儀」が教育の中心となっ
ており、他の内容について教える比率は非常に少ない。

こうした親の教育行動は子供の禁忌習俗知識に直接影響を与えている。禁忌習俗について
はウーシン旗の子供ができる比率が総じて高く、地域差がみられたが、どちらの地域でも「飲
食」、「交流」、「礼儀」の項目が高くなっている。それ以外の「服飾」、「家具」、「住居」、「出
産」、「家畜」についてはわからない子供が多い。

(5) 家庭内の生活知識

ここでは、モンゴル族の家庭内の生活に必要な知識として「搾乳する」、「乳製品を作る」、
「民族服を作る」、「裁縫する」、「刺繍する」、「料理を作る」ことを考察する（表11）。

まず、家庭内の生活知識の教育状況を地域と世代別にみる。多くの質問項目においてウー
シン旗の親の教える比率が高い。自分が育った家庭との比率の変化をみると、ウーシン旗で
は2割近く、フレー旗では2割から3割強も減少している項目がある。いわゆる家庭内の生
活知識の教育は世代が若くなるにつれて激減し、フレー旗で特にその傾向が強くあらわれて

いる。なお、「料理を作る」ことについては教える比率が最も高いのみならず、地域差と世代差がみられない。

表11 家庭内の生活知識の教育／地域別・世代別

	子供ができること			親が子供に教えたこと			親が育てられた家庭で教わったこと		
	フレージ	ウーシン旗	有意確率	フレージ	ウーシン旗	有意確率	フレージ	ウーシン旗	有意確率
搾乳する	7.0%	33.0%	***	8.0%	33.0%	***	43.0%	52.0%	0.203
乳製品を作る	7.0%	34.0%	***	7.0%	47.0%	***	38.0%	63.0%	***
民族服を作る	0%	5.0%	***	0%	17.0%	***	0%	36.0%	***
裁縫する	16.0%	16.0%	1	18.0%	20.0%	0.718	38.0%	37.0%	0.884
刺繍する	6.0%	15.0%	*	8.0%	9.0%	0.800	33.0%	34.0%	0.881
料理を作る	89.0%	77.0%	*	77.0%	80.0%	0.606	71.0%	81.0%	0.098

注：***P<0.01 *P<0.10

教育内容をみると、「民族服を作る」ことは世代を問わずウーシン旗では教えられているが、フレージではその比率は0%となっている。ウーシン旗で比率が高い項目は「搾乳する」、「乳製品を作る」である。「搾乳する」ことに関して、フレージでは親が育てられた家庭ではウーシン旗と同様によく教えられていたが、現在の親では子供に教えなくなった人が多数いる。

子供ができる家庭内の仕事をみると、ウーシン旗の子供は「搾乳する」、「乳製品を作る」、「民族服を作る」、「刺繍する」ことについてフレージの子供より比率が高くなっている。「料理を作る」はフレージの子供の方ができると回答した比率が高く、「裁縫する」について地域差はなかった。全体的に、親が子供に教えた比率より、子供ができる比率は小さくなっている。ただ、「料理を作る」ことでは、特にフレージの子供において親が教えた比率を上回っている。

次に親の教育行動についてそれぞれの地域の性別に注目して検討する（表12）。多くの項目についてフレージよりウーシン旗の親の方が教える比率が高い。フレージの親は男女とも子供に「民族服を作る」ことを教えてない。「裁縫する」ことについては男女差がみられないが、「搾乳する」、「乳製品を作る」、「刺繍する」、「料理を作る」ことでは女性の方が多く教えており、フレージでは家庭内の生活知識を女性中心で子供に教えていることがわかる。ウーシン旗の親でも女性中心の傾向は同じである。「搾乳する」、「民族服を作る」、「刺繍する」ことを教えるには男女差はみられないが、「乳製品を作る」、「裁縫する」、「料理を作る」ことについて男性より女性のほうが子供に教えている。

子供ができる家庭内の生活知識をそれぞれの地域の性別に絞って分析する。両地域とも性別を問わず「料理を作る」ことが最も多い。ほぼすべての項目について男子より女子、フレージよりウーシン旗の子供ができる比率が高い。フレージの男子は「搾乳する」、「刺繍する」、「民族服を作る」ことができないが、「乳製品を作る」、「裁縫する」についてはきわめて少ないながらもできる子供がいる。ウーシン旗では「民族服を作る」ことでは男女差がみられな

い。男子は「裁縫する」、「刺繍する」ことはできないが、「乳製品を作る」、「搾乳する」についてはできると回答したものが少数いた。これらができる女子の比率が高いことをみても、家庭内の生活知識について親世代のみならず子供世代でも男女役割分業は明確に存在していることがわかる。

表12 家庭内の生活知識における男女差／地域別・世代別

	子供ができること						親が子供に教えていること					
	フレー旗			ウーシン旗			フレー旗			ウーシン旗		
	男子	女子	有意確率	男子	女子	有意確率	男性	女性	有意確率	男性	女性	有意確率
搾乳する	0%	35.0%	***	6.0%	81.0%	***	0%	17.0%	***	28.0%	37.0%	0.352
乳製品を作る	2.0%	13.0%	*	2.0%	64.0%	***	0%	15.0%	***	37.0%	56.0%	*
民族服を作る	0%	0%	-	4.0%	6.0%	0.713	0%	0%	-	15.0%	19.0%	0.661
裁縫する	4.0%	19.0%	***	0%	31.0%	***	13.0%	23.0%	0.185	7.0%	32.0%	***
刺繍する	0%	10.0%	***	0%	29.0%	***	2.0%	15.0%	**	7.0%	11.0%	0.424
料理を作る	85.0%	94.0%	0.145	69.0%	85.0%	*	70.0%	85.0%	*	67.0%	91.0%	***

注：***P<0.01 **P<0.05 *P<0.10

(6) 家庭外の生活知識

ここでは、モンゴル族の伝統的な生活に必要な家庭外の生活知識として「ゲルを建てる」、「馬車の部品を整える」、「馬具を作る」、「馬を調教する」、「家畜の世話をする」、「家畜の呼び名」、「家畜の小屋を作る」、「草、皮で綱を作る」、「車、農牧用の機械の使い方」、「農耕作業を行う」、「天気、気象状況を見取る」の11項目をとりあげる（表13）。

表13 家庭外の生活知識の教育／地域別・世代別

	子供ができること			親が子供に教えたこと			親が育てられた家庭で教わったこと		
	フレー旗	ウーシン旗	有意確率	フレー旗	ウーシン旗	有意確率	フレー旗	ウーシン旗	有意確率
ゲルを建てる	0%	22.0%	***	0%	24.0%	***	0%	42.0%	***
馬車の部品を整える	0%	6.0%	**	0%	10.0%	***	42.0%	26.0%	**
馬具を作る	2.0%	4.0%	0.407	0%	16.0%	***	43.0%	44.0%	0.887
馬を調教する	1.0%	9.0%	***	1.0%	13.0%	***	26.0%	30.0%	0.529
家畜の世話をする	33.0%	50.0%	*	42.0%	42.0%	1	88.0%	10.0%	***
家畜の呼び名	32.0%	66.0%	***	56.0%	71.0%	***	86.0%	10.0%	***
家畜の小屋を作る	9.0%	19.0%	**	12.0%	17.0%	0.315	64.0%	45.0%	**
草、皮で綱を作る	2.0%	15.0%	***	0%	6.0%	**	64.0%	54.0%	0.175
車、農牧用機械の使い方	30.0%	21.0%	0.144	55.0%	21.0%	***	14.0%	20.0%	0.259
農耕作業を行う	43.0%	23.0%	***	38.0%	27.0%	*	73.0%	20.0%	***
天気、気象状況を見取る	44.0%	55.0%	*	64.0%	56.0%	0.248	87.0%	10.0%	***

注：***P<0.01 **P<0.05 *P<0.10

まず、家庭外の生活知識の教育状況を地域、世代別にみる。多くの項目で、両地域とも世代差がみられ、親自身が育てられた家庭より現在の親の教える比率が大きく減少している。逆に増加している項目もある。ウーシン旗では車、農牧用機械と農作業の知識より、家畜の世話と呼び名を教えるのが大きく増加している。フレー旗では「車、農牧用機械の使い方」

について41ポイントも増加している。

また、教育内容において、親自身が育てられた家庭では「馬具を作る」、「馬を調教する」、「草、皮で綱を作る」、「車、農牧用の機械の使い方」について地域差がみられなかったが、現在の親世代では地域差が生じるようになった。逆に「家畜の世話をする」、「家畜の小屋を作る」、「天気、気象状況を見取る」ことについては、親自身が育てられた家庭でみられた地域差が、現在の親世代ではなくなっている。ウーシン旗では子供に教えなくなった項目はないが、フレイ旗では「ゲルを建てる」、「馬車の部品を整える」、「馬具を作る」ことはもはや教えられなくなっている。

子供ができることをみると、農耕が進んだフレイ旗の子供は「車、農牧用の機械の使い方」、「農耕作業を行う」ことをできる比率が高い。他の項目については、牧畜を中心として生活しているウーシン旗のほうが高い。親が教えたことの比率と子供ができることの比率を比較してみると、両地域とも多くの項目について、親が教えているにもかかわらず子供ができない様子がうかがえた。

現在の親が子供に教えたことと子供ができることにおける男女役割分業状況を地域別でみたのが表14である。

表14 家庭外の生活知識における男女差／地域別・世代別

	子供ができること						親が子供に教えたこと					
	フレイ旗			ウーシン旗			フレイ旗			ウーシン旗		
	男子	女子	有意確率	男子	女子	有意確率	男性	女性	有意確率	男性	女性	有意確率
ゲルを建てる	0%	0%	-	31.0%	14.0%	**	0%	0%	-	18.0%	6.0%	***
馬車の部品を整える	0%	0%	-	13.0%	0%	***	0%	0%	-	6.0%	4.0%	0.349
馬具を作る	4.0%	0%	0.170	8.0%	0%	**	0%	0%	-	26.0%	7.0%	**
馬を調教する	2.0%	0%	0.334	17.0%	2.0%	***	1.0%	0%	0.286	13.0%	0%	***
家畜の世話をする	71.0%	42.0%	***	46.0%	54.0%	0.423	23.0%	19.0%	0.764	26.0%	16.0%	***
家畜の呼び名	58.0%	71.0%	0.171	63.0%	69.0%	0.478	30.0%	26.0%	0.897	34.0%	37.0%	0.554
家畜の小屋を作る	17.0%	0%	***	27.0%	12.0%	**	12.0%	0%	***	10.0%	7.0%	0.244
草、皮で綱を作る	4.0%	0%	0.170	31.0%	0%	***	0%	0%	-	6.0%	7.0%	0.839
車、農牧用機械の使い方	58.0%	0%	***	31.0%	12.0%	**	40.0%	15.0%	***	11.0%	10.0%	0.509
農耕作業を行う	48.0%	38.0%	0.286	27.0%	19.0%	0.351	20.0%	18.0%	0.954	16.0%	11.0%	0.106
天気、気象状況を見取る	44.0%	44.0%	0.961	63.0%	48.0%	0.148	32.0%	32.0%	0.423	28.0%	30.0%	0.365

注：***P<0.01 **P<0.05

ウーシン旗の親世代では、女性より男性のほうが「ゲルを建てる」、「馬具を作る」、「馬を調教する」、「家畜の世話をする」方法を教えているが、他の項目では男女差はみられない。フレイ旗では「ゲルを建てる」、「馬車の部品を整える」、「馬具を作る」、「草や皮で綱を作る」ことをもはや子供に教えていない。「家畜の小屋を作る」、「車、農牧用の機械の使い方」を教える比率は女性より男性のほうが多く、他の項目については男女差がみられなかった。

地域別で子供ができることにおける男女差をみる。ウーシン旗では「ゲルを建てる」、「馬車の部品を整える」、「馬具を作る」、「馬を調教する」、「家畜の小屋を作る」、「草、皮で綱を作る」、「車、農牧用の機械の使い方」について女子より男子のほうができる子供が多く、他

の項目については男女差がみられなかった。フレー旗では「ゲルを建てる」と「馬車の部品を整える」ことができる子供はいないが、「家畜の世話をする」、「家畜の小屋を作る」、「車、農牧用の機械の使い方」については女子より男子のほうが多く、他の項目について男女差はみられなかった。

総じて、ここでとりあげた家庭外の生活は親子ともに男性を中心に行われている。フレー旗では親世代から男性中心の傾向はみられる。ウーシン旗の親世代では多くの項目について男女差がみられなかったが、子供世代では男女差がみられる項目が増加している。すなわち、ウーシン旗では家庭外の生活を男子中心で行うようになり、男女役割分業がより明確になってきているといえる。

結論

本稿ではモンゴル族の家庭教育における民族文化の教育現状について質問紙調査を行った。調査分析から、両地域の家庭では民族文化についての教育比率と教育内容が地域と世代によって大きく異なり、民族文化は地域と社会生活の変動に大きく影響されているといえる。最後に、両地域の共通点と相違点、家庭内での民族文化の教育内容の変化について整理してみたい。

(1) 民族文化との接触

まず、共通点として、「民族文化を重視する」と「モンゴル族の伝統文化は価値がある」ことは子供にモンゴル族伝統文化を教える大きな動機となっている。家庭で子供に民族文化を教える良さとして「子供の民族意識を上げる」と「子供に民族文化を知ってもらう」ことがあげられた。親はモンゴル族の文化だけではなく、他の民族の文化を受け入れるほうで積極的な態度を持っている。

次に、相違点として次のことが指摘できる。フレー旗では家庭内で子供と話す時に「蒙漢混合語」を中心に使っているが、ウーシン旗では「モンゴル語」を中心に使っている。フレー旗では親より子供のほうが「家庭で子供に民族文化を教える必要がある」という意識が弱い。フレー旗よりウーシン旗の親のほうが家庭ではモンゴル族の伝統的なことわざ、禁忌語、習俗礼儀を日常的に使って子供を教育し、モンゴル族の習俗で祝日を過ごしている。子供の祝日の過ごし方にも地域差がある。民族文化の取得方法には地域差がないが、親世代では「親が口頭伝達する」、「親が現場で教える」ことが主な取得方法であった。今の子供たちは学校寄宿制度の実施により、幼稚園の時から実家を離れ、学校に寄宿する。すなわち、学校にいる時間が多く、家庭生活で民族文化を実感、経験できることが少なくなっている。そのため、子供世代では「親が現場で教える」ことが減少し、「学校で勉強する」、「伝統文化関係の本を読む」、「メディアを利用する」ことが増加してきたと思われる。

(2) 家庭教育における民族文化の変容

家庭で民族文化を教育する上で、両地域では以下の共通点と相違点がみられた。

まず、共通点として、世代が若くなればなるほど民族文化に関する教育内容について教える比率が減少する傾向が多くみられた。教育内容として伝統的な生活にかかわる習俗、文化、生活知識といったものを教えることが少なくなり、伝統的なものというより現在の生活に必要な内容を多く教えるようになってきている。民族文化について子供ができることの比率は親が教えたことの比率を下回ることがほとんどであった。この原因として次の三点が考えられる。一点目は、子供が親の教えたことに興味がなく重視していないために、それらが身につかない。二点目として、親が教える内容が子供の日常生活において実用性を失っている。言い換えれば、親が教えた内容と現在の社会生活の間で葛藤が起きている。三点目は、子供が家より学校にいる時間が長く、親が教えた習俗、知識などについて経験、実行できないため身につけられない。今回の調査ではそのいずれが当てはまるかは解明できないが、家庭教育の機能が弱化している可能性はみてとれる。

次に、相違点として家庭における習俗、民族伝統文化、民族芸術、禁忌習俗、家庭内、家庭外の生活知識に関する多くの質問項目について、世代を問わず、フレー旗よりウーシン旗の親のほうが教える比率が高くなり、子供ができることについても同じ地域差がみられた。前述のように親が民族文化にかかわる内容を教える比率が減少している点では両地域とも同じであるが、ウーシン旗よりフレー旗の親の方が教える比率の減少は激しかった。これはモンゴル族牧民が多く住んでいるウーシン旗よりモンゴル族農耕民が多く住んでいるフレー旗の家庭において、民族文化の流失、変動が大きいことを示すものである。以上の分析より現在の社会、生活環境はモンゴル族家庭教育における民族文化に大きな影響を与えているといえる。

本稿の調査によって、内モンゴル自治区の西部と東部地域に生活しているモンゴル族では、家庭教育を通じた民族文化の継承内容が大きく変化していること、モンゴル族の家庭では世代が若くなればなるほど民族文化についての知識が低下し、家庭教育はその継承機能を失いつつあることが明らかになった。さらに地域による違いが大きいことも明らかになった。内モンゴルの西部ではモンゴル族人口自体は少ないが、モンゴル族牧民が多く、伝統的な生活環境が多く残っているため、民族文化の喪失は東部より緩やかである。それに対し、内モンゴルの東部はモンゴル族人口が多い地域ではあるが、モンゴル族農耕民が多く、農耕文化の影響が強いため、モンゴル族家庭での民族文化の流失が激しくなっている。以上の分析から地域社会環境と生活環境は家庭教育における民族文化に大きく影響しているといえる。

注

- 1 内モンゴル自治区の西部区域は行政区画としてウランチャブ市、フフホト市、バオトウ（包頭）市、オールドス市、シリングル盟、アルシャー盟、バヤンノール市が含まれている。

李「家庭教育における民族文化の現状」

- 2 内モンゴル自治区東部区域は行政区画としてフルンボイル市、ヒンガン盟、通遼市、オラーン・ハダ（赤峰）市が含まれている。
- 3 ウーシン旗政府2017年国民経済と社会發展統計公報www.wsq.gov.cn
- 4 フレー旗政府kulun.tongliao.gov.cn
- 5 中国の行政区画は基本的に省級、地級、県級、郷級とレベルが下がる4層の構造から成る。内モンゴル自治区で言えば、省級行政単位として「内モンゴル自治区」があり、地級行政単位として「盟」と「市」があり、県級行政単位として「旗」があり、郷級行政単位として「鎮」があり、鎮の下に「ソム」、「ガチャー・村」がある。
- 6 当校は初級中学校を設立するとともに、高級中学校も設立し、中国語で完全中学校と言う。学校はウーシン旗政府所在地に位置し、1976年に建立された。教職員は160人、生徒は37組、在校生は1782人、寄宿生は1500人いる。
- 7 フレー旗第四初級中学校はフレー旗の中心地となるフレー鎮に位置し、フレー鎮における唯一のモンゴル語、中国語と英語の三語教育を実施しているモンゴル族初級中学校である。1987年9月に建立され、教職員は148人、生徒は26組、在校生は1163人、寄宿生は1000人以上いる。
- 8 フレー旗第一高級中学校もフレー鎮に位置し、フレー旗における唯一モンゴル語で授業を行う高級中学校である。当校はフレー旗においてモンゴル語、中国語、英語と日本語といった唯一の四語教育を行っている学校でもある。学校は1954年に建立され、教職員は173人、生徒は30組、在校生は1500人、寄宿生は1300人余りいる。

参考文献

日本語参考文献

- エンフソヨル (2009) 「モンゴル人の家庭教育を考える」『モンゴル交流協会ナイラムダル』No.64, pp.6-7.
- 薩楚拉 (2013) 『内モンゴル・モンゴル民族における家庭教育の変遷』兵庫教育大学修士論文
- 宝力嘎 (2007) 「モンゴル民族の教育：文化的観点からの考察」『人文論究（関西学院大学）』Vol.57, No.1, pp.122-135.
- パーサンジャブ・バトゲレル (2013) 「モンゴルの教育における伝統的価値観とソビエト社会主義価値観の葛藤」『仏教大学教育学部学会紀要』No.3, pp.113-127.

外国語参考文献

- 敖木巴斯爾、南丁 (2010) 『蒙古族伝統民間教育』民族出版社
- 敖日布巴斯爾、那恩和 (2010) 『蒙古族伝統家庭教育』内蒙古科学技術出版社
- 鄧永星 (2011) 『蒙古族伝統家庭徳育教育及現代価値研究』内蒙古農業大学修士論文
- 鞠楠楠 (2015) 「浅析蒙古族伝統家庭教育」『金田』No.332, p.217.
- 韓艶華 (2016) 「家庭教育在未成年人成長中的価値探求」『同行』No.14, p.335.
- 李素梅、張苗苗 (2007) 「現代蒙古族家庭美德構成的調査研究」『内蒙古民族大学学报（社会科学版）』Vol.33, No.6, pp.98-102.